

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	20578
事業名	ごみ資源化工場運営管理費					
評価担当課	所属名	環)環境事業部 白石清掃工場				
	課長名	堀江 透	担当者名	及川 治雄	電話番号	011-876-1710
施策名	主	-				
	副					
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外		
事業の性質	● 経常経費 ○ 臨時的経費					
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理					
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ● 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他				
	目的	短期	施設及び設備の老朽化に対し適切に対応しつつ、工場の運転、機器の維持管理・保守・点検・修繕を行う			
		長期	市域内から発生する再生可能なごみ(木、紙、プラスチック)から、地域熱供給事業等に利用される固形燃料を製造し、リサイクル率の向上を図る			
	取組内容	事業ごみのリサイクルを図るため、市内事業所等から排出される事業系の木くず及び紙くず等を受入れ、選別・破碎・圧縮等してごみ固形燃料(RDF)を製造し、地域冷暖房熱源として需要先に供給する事業である。また、平成21年7月から分別収集を開始した「雑がみ」の選別処理における製紙原料に適さない紙類を受入れ、固形燃料の原料として活用している。				
	実施結果	目標に対し下回る結果となっているが、事業者によるごみ減量や新型コロナに伴う事業活動縮小を受け、受入ごみ量の低下が生産量、出荷量に影響した。				
事業実施における工夫点	施設全体の機能維持を図るため、日常的な点検・整備と老朽化した設備の部分更新を行った。施設の老朽化が進む中で、ごみの適正処理を行っていくためには適切な整備保守が必要となるが、事業内容を精査し経費の圧縮に努めた。					
対象者	市民・市内事業者	開始	0 年度	終了	0 年度	
関連法令・条例・要綱等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律					
他都市の状況	他都市の固形燃料事業は、ダイオキシン類削減対策の一環として家庭ごみの広域処理対応のために導入された事例が多いが、本市の固形燃料事業は事業系の紙くず・木くずを主原料として製造している。					

◎事業費

(単位:千円)

		令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費		486,711	469,713	508,392	475,554
うち特定財源		168,699	465,868	114,194	475,554
人工		1.0	1.0	1.0	1.0
人件費		7,200	7,200	7,200	7,200
計(事業費+人件費)		493,911	476,913	515,592	482,754
事業費の内訳	令和3年度決算	決算額 508,392千円 <内訳> 光熱水費等需用費110,304千円、整備等委託料395,304千円、使用料賃借料2,784千円			
	令和4年度予算	予算額 475,554千円 <内訳> 光熱水費等需用費91,460千円、整備等委託料381,310千円、使用料賃借料2,784千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	固形燃料生産量(t)		
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
	13309	13840	12079	13000
活動指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定
成果指標1	指標名	固形燃料出荷量 (t)		
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
	13309	13840	12079	13000
成果指標2	指標名			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標
項目	判定	理由		
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	民間のリサイクルが進んだことにより、事業系の木くず・紙くずの搬入量が減少している。それに伴い固形燃料の生産量は年々減少しているが、平成21年度から開始した「雑がみ」の選別処理による残さの受入が加わり、紙くず等のリサイクルの受皿として重要な役割を果たしている。さらに新型コロナに伴う事業活動低下が搬入量低下にも影響している。		
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	固形燃料の需要は大きい供給が下回っている。プラント機器の老朽化により修繕及び定期整備費等は増加傾向にあり、整備方法の見直し等により、経費節減を図っている。		
事業の実手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	平成20年度より下記業務に一般競争入札を導入し委託費の低減を図っている。 ①運転業務(単年度契約→平成27年度より複数年契約) ②固形燃料運搬業務(単年度契約) ③定期整備業務		
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	事業系の木くず・紙くずを資源化できる大規模施設が近隣には他に存在しないため、紙くず等の安定したリサイクルを実施するために不可欠な事業である。また、平成14年度に廃止した厚別清掃工場の余熱を利用して厚別地区熱供給事業の代替熱源として位置づけられていることから、今後も継続する必要がある。		
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input checked="" type="checkbox"/> 対象外 市民参加結果への対応 <input type="checkbox"/> 回答 <input type="checkbox"/> 反映			
今後の改善点	ごみ量の減少に伴い、固形燃料生産量は減少傾向にあることから、固形燃料の安定供給を図るため、破碎工場に搬入される木質系廃棄物の利用等について検討を進めていく必要がある。			
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
今年度取り組んだ見直し内容	整備費を中心に事業内容全体を見直し経費節減に努めた。		見直し効果額 (前年度)	0 千円
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし			
評価の理由	老朽化するプラント設備の安定運転を確保するため、主要機器の定期的な部品交換は必要であるが、整備内容の精査を行い事業費の抑制に努める。			
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	● 改善 ○ 現状維持 ○ 休止・廃止 老朽化するプラント設備の安定運転を確保するため、主要機器の定期的な部品交換は必要であるが、整備内容の精査を行い事業費の抑制に努める。		
	予算	● 拡充 ○ 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 定期整備等の実施内容を見直し経費節減に努めてきたが、突発的な故障・修理費については、現状予算内での対応は困難となってきた。		見直し効果額 0 千円